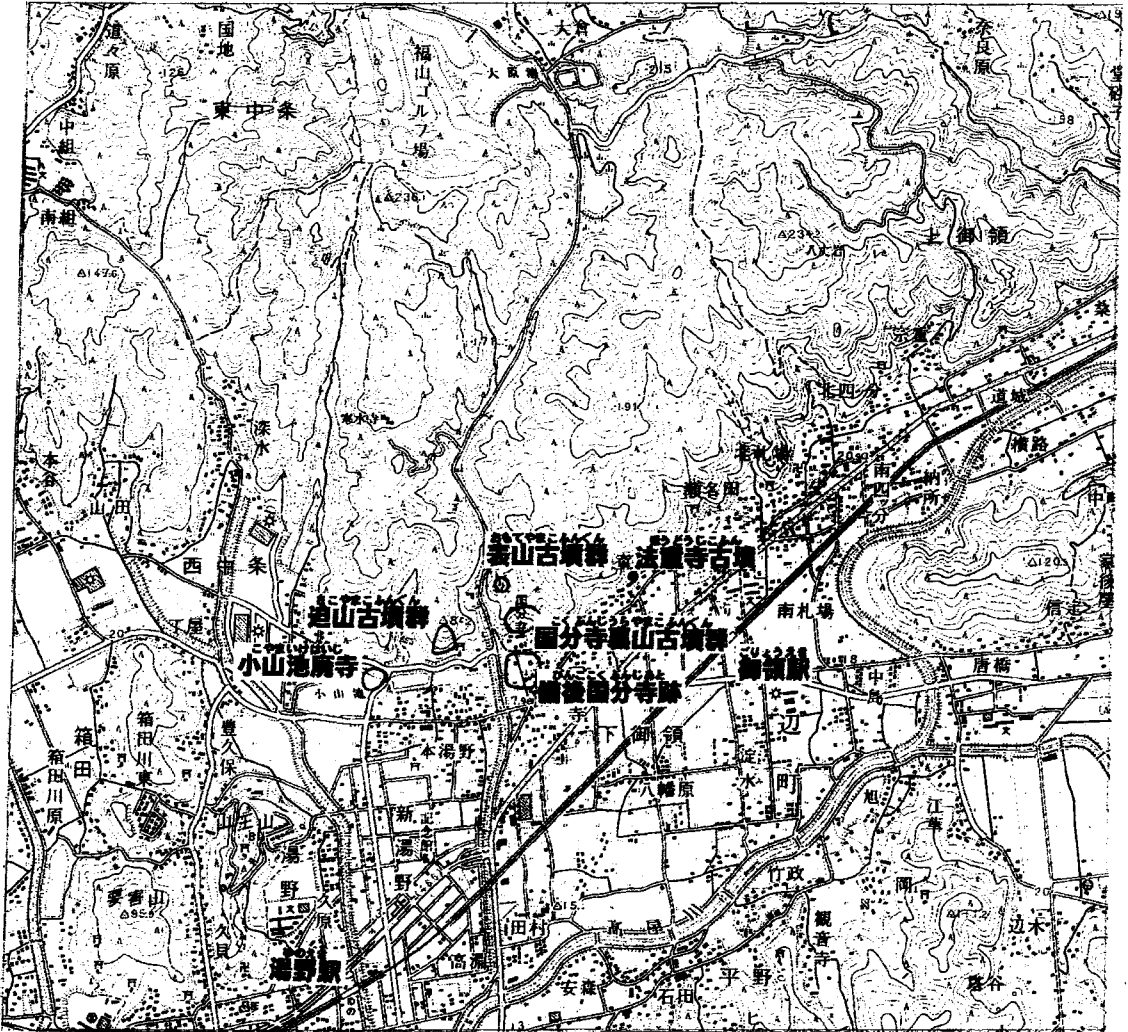


備陽史探訪の会

第24回 親と子の古墳めぐり

～緑まぶしい神辺路を歩く～

平成 18年 5月 5日



今回訪ねる場所

法重寺古墳 ⇒ 備後国分寺跡 ⇒ 国分寺薬山古墳群 ⇒ 表山古墳群
⇒ 追山古墳群 (第1号・第3号・第9号) ⇒ 小山池廃寺

「親と子の古墳めぐり」参加の皆さんへ

わたしたち「備陽史探訪の会」は、福山周辺の歴史を学ぶことを通じて、この地域の文化を再発見することを目指しています。

そのための活動の一つとして、毎年5月5日のこどもの日に「親と子の古墳めぐり」というイベントを開催しています。

このイベントは、文字どおり親と子が一緒に地域を歩きながら、身の回りの文化財を知り、それらに興味を持つことによって、地域の歴史や文化を学ぶきっかけになれば、という思いで続けています。

どうか、新緑のまぶしいこの一日、参加者の皆さんにとって、心地よい汗とともに子どもたちとのふれあいが深まりますよう、願っています。

備陽史探訪の会


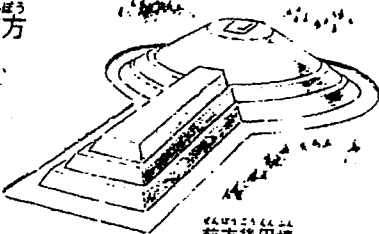
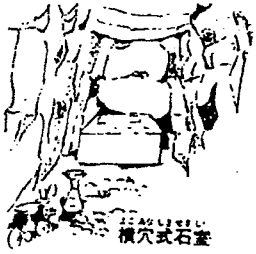
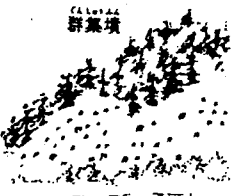


【古墳めぐりの際の注意】

- (1) 交通ルールを守って歩きましょう
- (2) 班長さんの言うことをよく聞いて行動しましょう
- (3) ゴミは持って帰るか、ゴミ箱に捨てましょう

きょうの予定

- 8時30分 福山駅前集合
- 9時 7分 井原鉄道 (福塩線経由) 乗車
- 9時28分 井原鉄道 御領駅到着
- 9時30分 開会式 (朝のあいさつ・諸注意など)
- 10時00分 さあ、出発です!
- 10時15分 法童寺古墳見学・説明
- 10時45分 備後国分寺跡 見学・説明
- 11時00分 国分寺裏山古墳群 見学・説明
- 11時45分 表山古墳群 見学・説明
- 12時30分 備後国分寺跡で昼休憩
昼食・クイズ大会あり!
- 13時30分 午後の出発です!
- 13時45分 迫山第9号古墳 見学・説明
- 14時15分 迫山第1号古墳 見学・説明
- 14時45分 迫山第3号古墳 見学・説明
- 15時00分 小山池廃寺 見学・説明
お別れのあいさつ

※井原鉄道 (湯野駅) 福山ゆき 14:42 15:26 16:00

年代	時代	できごと
300	弥生時代	<p>邪馬台国の女王ヒミコが中国に使者を送る</p> <p>女王ヒミコ</p> 
	前期	<p>この頃から、前方後円墳がつくられはじめる</p> <p>東日本でも、大型の前方後円墳がつくられる</p>  <p>前方後円墳</p>
400	古墳時代	<p>近畿を中心に巨大な前方後円墳がさかんにつくられる</p>  <p>横穴式石室</p>
	中期	<p>横穴式石室が、全国に広がる</p>  <p>群集墳</p>
500	後期	<p>群集墳がつくられる</p>
	終末期	<p>聖徳太子が摂政となる</p> <p>大化の改新</p> <p>大きな古墳はほとんどつくられなくなる</p> <p>各地で寺院がつくられる</p>  
600	飛鳥時代	<p>奈良に都（平城京）が</p>
	奈良時代	<p>つくられる</p>

◎古墳時代とは…

土を盛り上げてつくった、王や豪族の墓のことを古墳といいます。

古墳は、その表面には石がしきつめられ、頂上や周りには埴輪が並べられていました。

また、その内部には棺を納める石室があり、棺には遺体のほかに、鏡や剣、武器や武具などが納められていました。

3世紀の後半から4世紀には、前方後円墳とよばれる大形の古墳が大和(奈良県)地域につくられました。

このことから、この地域に強大な権力をもつ王が存在していたと考えられています。そして、この王たちがつくった政権を大和政権といいます。

5世紀の後半には、九州北部から関東地方までの各々のくにの権力者は、大和政権に従うようになったと考えられています。

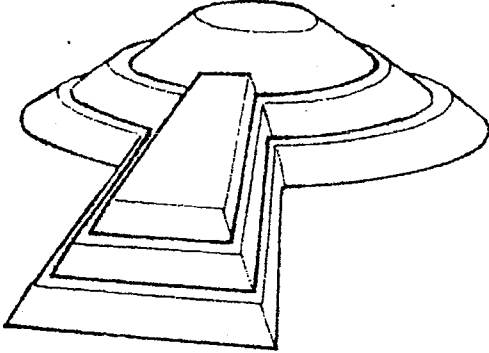
大和政権の支配者を、中国では倭王、国内では大王とよんでいます。

大和政権は、この大王を中心に、大和と周辺の有力な豪族で構成されました。豪族は、先祖を共通にする氏という集団をつくり、代々決まった仕事で任えていました。

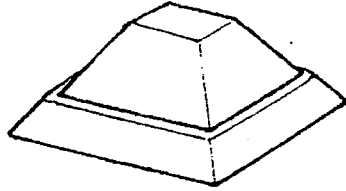
こうした3世紀後半から6世紀の時代を古墳時代とよんでいます。

こふん
●古墳のかたち

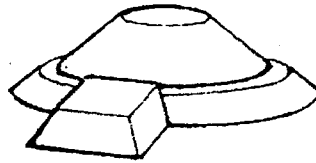
ぜんほうこうえんふん
前方後円墳



ほうふん
方墳



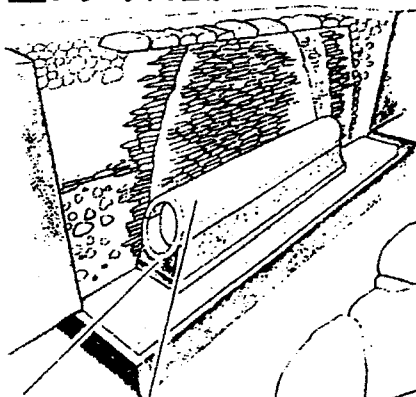
ほたてがいしきこふん
帆立貝式古墳



えんふん
円墳



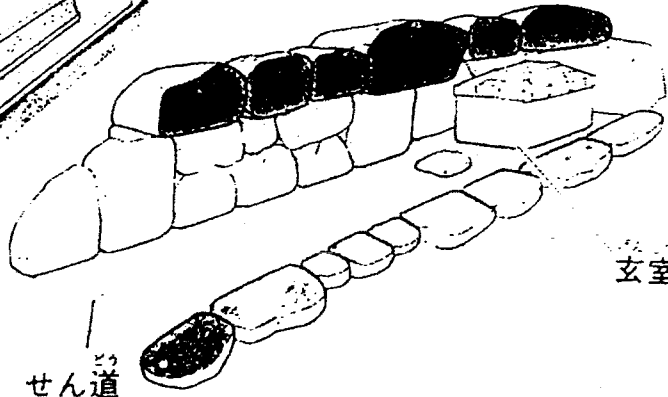
たてあなしきせきしつ
竪穴式石室



粘土床

割竹形
木棺

よこあなしきせきしつ
横穴式石室



玄室

せん道

ふくそうひん うつ か
副葬品の移り変わり

<p>前 期</p>	 <p>銅鏡</p>	 <p>石製腕輪 形宝器</p>	<p>鉄製のうこう 鉄製農工具</p> 
<p>中 期</p>	<p>石製模造品</p> 	<p>武具</p> 	<p>金属の装身具</p>  <p>馬具</p> 
<p>後期・ 終末期</p>	<p>須臾器</p> 	<p>刀</p> 	<p>装身具</p>  <p>馬具</p> 

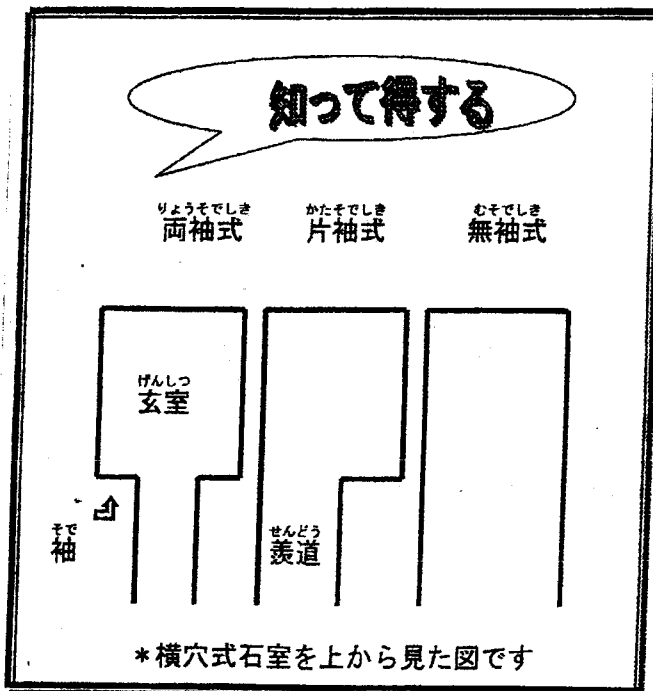
① **法童寺古墳**

古墳時代後期（6世紀）に爆発的に増える**群集墳**が、神辺平野の北側の山裾に数多く残っています。

この古墳は、それら**群集墳**のひとつ、**法童寺古墳群**の中心的なもので、石室のみが残っています。その石室の現在の長さは約6メートル、幅1.7メートル、高さ1.5メートルです。

石室の種類は、**横穴式石室**とよばれるもので、大きな石を2段に積み、石の表面には面を平らに整えるために削った跡が見られます。

出土品はわかっていませんが、古墳の形や石室のつくり方などから、この古墳のつくられた時期は6世紀後半以降と考えられます。



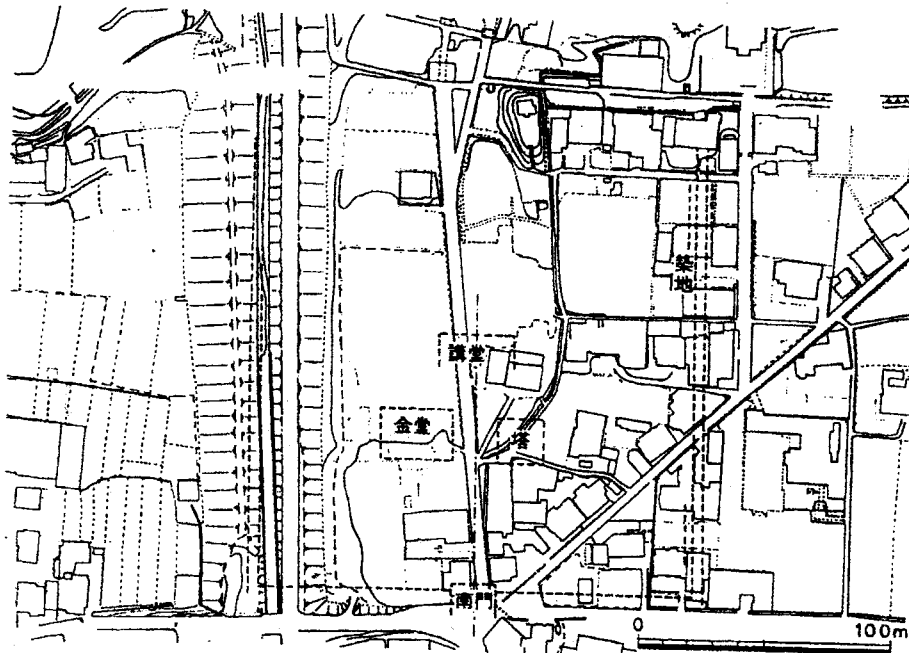
② 備後国分寺跡

奈良時代に全国につくられた**国分寺**の中で、**備後国**（現在の広島県東部）のもので、

寺跡は、**芦田川**の支流である**高屋川**東側の山裾にあり、その北側が現在の**真言宗国分寺**境内になっています。

広島県教育委員会により発掘調査がおこなわれて、建物の跡や寺跡の範囲がわかっています。それによると、**東西南北**約180メートルの範囲が寺跡で、東側に**講堂**、西側に（仏像を納める）**金堂**、北側に**講堂**がみつかっています。

出土した**瓦**の**特長**などから、この寺は8世紀の中ごろから戦国時代まで続いたことが**推測**されています。



こくぶんじうらやまこふんぐん
③ 国分寺裏山古墳群

こくぶんじ うらやま ぐんしゅうふん やまみち りょうがわ ちい よこあなしきせきしつ こふん
国分寺の裏山にある 群集墳 で、山道の 両側 に小さな横穴式石室の古墳や、
はこしせつせつかん
箱式石棺 とよばれる いたじょう いし くみあわ かんたん こふん
板状の石を組合せてつくった簡単な古墳をいくつか見る
ことができます。

みなさんは、いくつ見つけることができますか？

ぐんしゅうふん
群集墳 とは？…

その名のとおり、小さな古墳
が狭い範囲にたくさん集まって
作られている状態をいい、古墳
時代の6世紀代に全国で見られる傾向です。



この群集墳は—

- ① 山の斜面や谷などを利用して、②主に直径
10メートルくらいの小型の円墳が、③数十年
の期間に数基から数10基が集中的に築かれ
ていて、④横穴式石室をもつものが多く、
⑤いずれも副葬品はわずか、なのが特徴です。

ぐんしゅうふん
群集墳が築かれたということは、それまで
一部の有力者しか作れなかった古墳が小地域
単位での有力者のレベルまで古墳を作れるよ
うになってきたということを示しています。

備陽史探訪の会編『古墳探訪』より要約

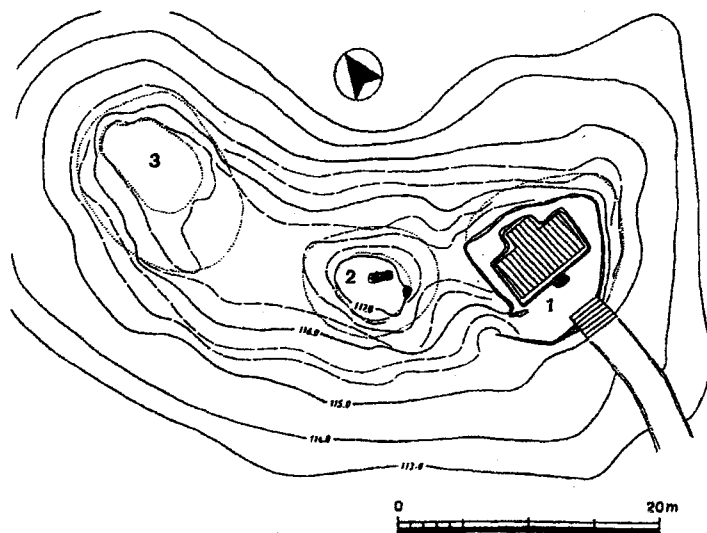
④ おもてやまこふんぐん 表山古墳群

国分寺裏山古墳群をさらに進むと、頂上に古墳が3基並んでいます。これが表山古墳群です。

その中の第2号古墳は発掘調査がおこなわれていて、その結果、直径が10.5メートル～8.1メートルのゆがんだ円墳で、内部の埋葬施設は箱式石棺であることが確認されました。

この箱式石棺は、横側も蓋も石は3枚ずつ使っていて、石と石の隙間だけでなく石棺すべてを粘土でおおっていました。さらに、石棺の中からは40才過ぎの女性と15才くらいの男性の骨が玉類と一緒に見つかっています。

この古墳は、5世紀の中ごろから後半につくられたと考えられています。



⑤ **迫山古墳群**

備後国分寺の北西に広がる丘陵の南斜面を中心に、迫山古墳群とよぶ

11基もの古墳が確認されています。

今回は、その中でも代表的な3基を紹介します。

○第1号古墳

この古墳は、直径21.5メートル、高さ5メートルの円墳で、埋葬施設は片袖式

の横穴式石室です。

石室の大きさは、入り口部分(羨道)の長さが5.2メートル、幅2メートル、

高さ2メートル。部屋の部分(玄室)の長さが6.4メートル、幅2.5メートル、

高さ2.8メートルもあり、広島県の中でも最大級です。

旧の神辺町教育委員会による発掘調査の結果、内部から刀・鉄製の鎌・

馬具・玉類・耳飾りや多数の土器(土師器・須恵器)が出土しました。これら

の中でも、単鳳頭太刀とよばれる大型の刀には精巧な細工がされていて、こ

の古墳に葬られた人がこの古墳群のリーダー的な存在であるだけでなく、

神辺平野の東部地域を支配した有力な豪族であったことが考えられます。

この古墳のつくられた時期は、6世紀後半から終わりごろと見られます。

○第3号古墳

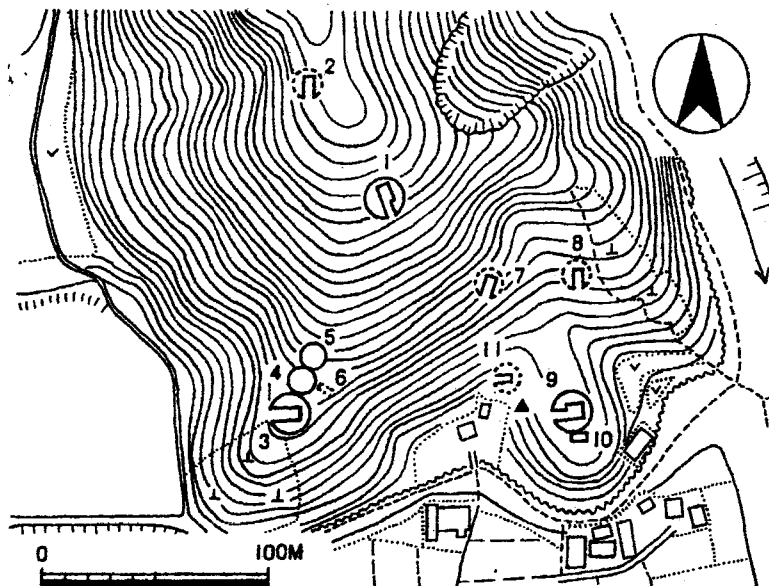
直径15メートル、高さ2.1メートルの円墳で、埋葬施設は全長6.8メートル、幅1.2メートルの横穴式石室です。

この石室は、西に向いて開いています。

○第9号古墳

直径19メートル、高さ2.6メートルの円墳で、埋葬施設は全長11メートル、現在の高さ1.6メートルの横穴式石室です。

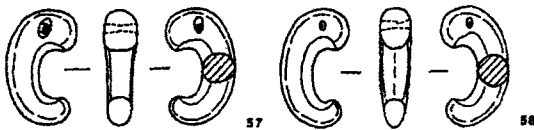
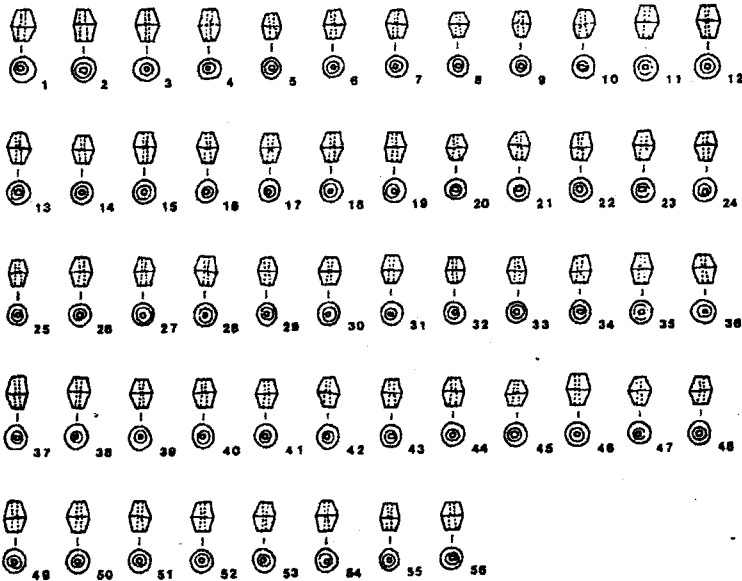
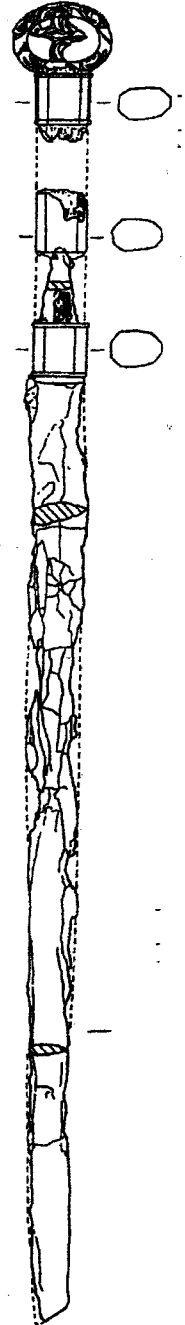
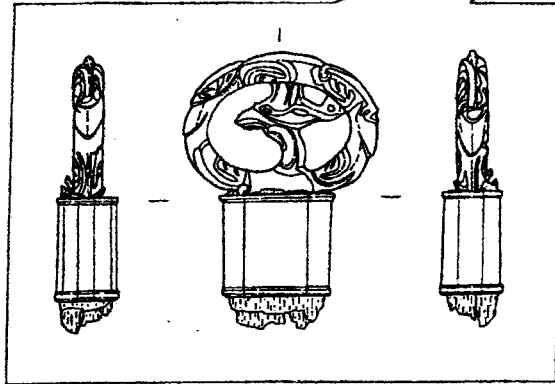
比較的大きな石室で、西に向いて開いています。



迫山第1号古墳から見つかった
おもなもの

かんとうたち
環頭太刀

かくだいず
拡大図



⑥ 小山池廃寺

神辺平野の北側山ろく、小山池の北側に見つかった寺跡です。この池の南に

は古代の主要道路である「山陽道」が走っていたと考えられています。

発掘調査の結果、東から金堂(？)、塔、講堂(？)がほぼ一直線に並ぶと

いう特徴をもつ寺跡であることがわかりました。その範囲は東西約100メートルと推測されています。

出土した瓦には、7世紀後半のものから奈良時代・平安時代のものがありま

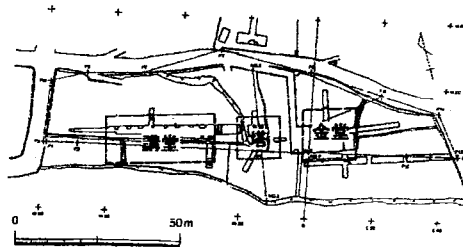
した。この寺跡の東方には国分寺跡があることから、7世紀後半(白鳳時代と

もいいます)に建てられたお寺が、奈良時代になって「国分尼寺」に使われた

のではないかと考えられています。



小山池廃寺位置図 (1.小山池廃寺 2.大宮遺跡
3.備後国分寺跡 4.迫山1号墳 5.寒水寺跡)



小山池廃寺伽藍配置 (1/2,000)

備陽史探訪の会

資料作成：備陽史探訪の会 古墳部会